

■私の中上級講義の特色

皆再受験生には再受験生の合格方法がある」→すべては8月の本試験の為に勉強する

「過去問は未来問である」→過去問を徹底的に分析する。出題の傾向を探る。「法律の設立には歴史あり」→通達番号の年号に注意。昭和50年⇒オイルショック

毎回の講義では、合格に必要な知識とそれ以外をしっかりと分けます。合格への道を皆さんと一緒に進みましょう。

■前回の本試験受験で得たものは何でしょう？

ズバリ「経験」「体験」ですか？

- 1 時間の配分はどうか？
- 2 読み間違えや勘違いで失点はありませんか？
- 3 勉強時間数はどうですか？
- 4 選択式や長文問題に苦戦しましたか？
- 5 最後の追い込みはどうか？

皆さんの経験や悔しさの体験をもとにした勉強を始めましょう。皆さんの経験

は知識ではありません。一定の点数を獲得しています。例えば択一が本試験で35点であれば、あと12点確保すれば合格です。40点の方は9点アップの勉強です。択一はある程度大丈夫だが、選択式の1点2点に涙した方は最初から選択式を意識した勉強です。これが再受験生の勉強方法です。稀に、今年こそ苦手な箇所を完全に克服する!!と勉強を始める方がいます。

それは、どうでしょうか？高得点は必要ありません。

それよりも合格のための勉強をしましょう。

知識の交通整理をして、知識編と問題集を併用することで解答する力が生まれます。毎回の講義はすべて8月に向かう作業工程です。

■登山に例えると

皆さんは一度山頂を目指して山登りをしました。しかし、天候不順、体調不良等でやむなく、下山した状態です。装備の点検はどうか？重い荷物や不要なものもあったと思います。登山のルートはどうか？荷物(知識)の選別をしっかりと行って、今一度山に登りませんか？

私、山下がガイド役でお供します。

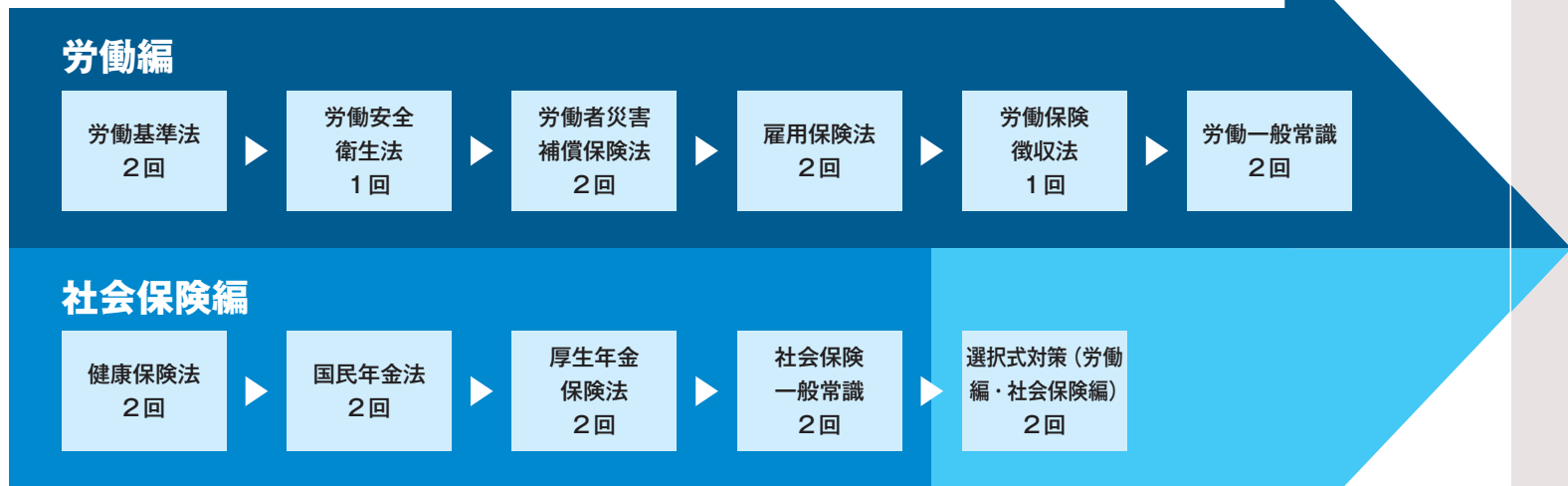
リニューアル!

山下良一講師が担当する、オプション講座

過去10年分 過去問分析と解き方講座 [全20回/別売]

～過去問は受験の王道～

一問一答過去問BOOKを使って受験生の合格のために必要なノウハウを伝授します。



私の、過去10年分 過去問分析と解き方講座は、こんな講座です！

※使用教材：2022年一問一答過去問BOOK

■「問題は解きません」

条文番号を整理して、「論点」を明らかにします。まずは、問題を解くから見るに変えませんか。問題を解く作業と、分析の作業は異なります。まずは、同じような過去問題を整理し分析しましょう。講義では、答えになる問題文を「点数問題」と呼びます。この点数問題が明らかになると、勉強方法は一变します。点数問題の70%は基本問題です。

■選択式・択一式共に、問題には解き方がある!

今年も選択式の解き方も組み入れました!

※本講座は答案練習ではありません。解き方を習得する講座です。

今年で4年目に入る「過去問解き方講座」です。本講座は、多くの受験生の要望により講座を組み立てました。問題は漠然と説いてはいけません。本物の「過去問解き方講座」です。

■こんな方にオススメ

- なぜか勉強しているのに点が伸びない
- 理解しているのに同じ箇所を間違える 長文が苦手
- 過去問対策に自信がない方 アウトプットが弱いと感じている方

■過去問はこうする6つのやり方

①山下の独自ノウハウで、皆さんを過去問の意味する世界へガイドします。法律条文では理解できない文章も過去問で学ぶと意外と簡単です。代表的なのは労働基準法の判例です。問題文は条文の解釈であることを理解しながら、過去問を学びなおすことが重要です。

②本論の各法律講座に先行して「解き方」を学びます。解き方講座から本論編に移行すれば、ズバリ!受験に対応した勉強が進みます。いろいろな視点を変えて問題文を解きます。例えば、文末から読む等のノウハウを学んだり、数字の前後から解く方法を学んだりします。「解き方」を学ぶことで、きっと、みなさんの過去問に対する意識が変わるはずですよ。

③単位問題を解く講座ではありません。「解き方」を学ぶ講座です。解き方講座の狙いは「問題文への対応」です。長文等は無視する等、様々な問題文への取り組み方を学びます。個数問題、長文、事例問題と、最近の問題文は解きにくいような形式で作成されていますが、基本的な出題は10年前とあまり変わりません。問われているのは、基本事項の繰り返しなのです。

④過去問題集を皆さんの受験の武器へ育てます。過去問題集を、ただの問題集から、重要ポイントのまとめに進化させます。講義形式としては、インプット講義で行います。問題文を客観的な視点で見て、重要ポイントをまとめていくと、皆さん自身の解答力が大きく変わります。

⑤「点数になった問題」を明らかにして、その問題にこだわります。「点数になった問題」とは、「答え」になった問題文のことです。過去10年分の答えになった問題文を明らかにします。次に出題傾向を分析し、繰り返されている条文をしっかりと説明します。

⑥選択式の解き方を伝授 選択式にも一定の解き方があります。語群の整理や数字、分数等科目の特色を分析して、一緒に解き進めてみましょう。出題傾向を踏まえて、解き方の解説講義をしていきます。選択式の解き方講義は、受験生の要望に基づいて導入した講義です。山下講義は、毎年パワーアップしていきます!

■山下クラスのご紹介

受験生のみならず、LEC専任講師の「山下」です。古里講師です。平成6年に講義を担当して28年目に入ります。受験生のみならずに支えられながら、自分でもよく継続できたと感心しています。これまで数多くの受験生とともに試験と戦ってきました。勉強方法や、時間の作り方、暗記の仕方、知識のまとめ方等、受験生の皆さんと一緒に考えてきました。「どうやれば合格できるのか?」「問題の意味が理解できない」「なにをすればよいのか?」等々・・・悩んでいる方、一度、水道橋本校に来てみませんか?私は、通信クラスの収録も担当しています。山下クラスの受講生の特色は、皆さん大変よく勉強します。真面目です。明日の自分を磨くため努力を重ねる方ばかりです。

■山下クラス 中上級講義の5つの特色

1.ズバリ!「法律条文」を大切に講義します。条文の流れを意識しながら講義を進めます。条文番号を意識して勉強すると、法律の仕組みや条文の構成等を再確認しながら理解することができるので、「そうか!」となります。これが合格のための正道です。

2.過去問を徹底的に分析します。過去問は未来の問題です。繰り返し出題されている問題箇所を重点的に解説します。

3.法律の立法の背景や歴史的な背景をお話します。ここは山下におまかせ下さい。白書関連講座も20年以上担当しており、自分でも研究しています。山下クラスでは、立法の趣旨や他の制度との関連を講義しますので、記憶に残る知識を習得することができます。

4.「ここは押さえる」ポイントを明確にした、実戦的な講義です。受験である以上「点数をとる」ことが講義の目的です。「ここは押さえる」ポイントを明確にして、点数を取る講座であることを強く意識した講義を行います。

5.過去問30年分のデータから次回の試験で押さえるべき箇所を明らかにします。私には、経験だけは「売るほど」あります。山下クラスでは、過去問を徹底的に分析し、次回の試験で押さえるべき箇所を明らかにします。皆さんの期待に応えて頑張ります!

■山下クラス 講義の流れ

最初は「身近な雑談」から入ります。授業には流れが有ります。皆さんがこの流れに乗れば、法律の体系や横断的な思考も生まれ、昨年苦戦された難問が、難問ではなくなります。奇問、難問の多くは当時の法改正が原因です。その時代に何があったのかが理解できれば意外と単純なのです。

★私を親父とってください

受験はマラソンです。私の役割は、みんなの合格目標を達成するためのコーチです。山下クラスの年齢層は20代から60代まで幅広く、楽しいクラスです。若い方は、私を親父と考えて、気軽に受験相談をしてください。



水道橋本校 生講義担当
Web・音声DL・スマホ収録担当
DVD収録担当

山下 良一

(やましたりょういち)
LEC専任講師

山下講師からのメッセージ
合格という山登りが始まります。私は受験回数3回でした。当時を振り返ると苦しく、トンネルに入り光が見えない自分がいました。平成6年から多くの受験生と戦ってきました。一緒に再び8月まで山の頂上まで、一気に走りましょう。



■対象となる受講生

1. 受験経験者及び実務経験者
2. 仕事等で勉強時間が取れない方
3. どう勉強すればよいのか悩んでいる方
4. 複数回受験しているが点数が伸びない方
5. 選択式で苦戦している方

■全国で通信学習の方

★ライブ講座をそのまま皆さんへ

山下は「カセット」時代からの収録講師です。電車で聞ける。隙間時間で学べる。単元を明確にして、講義の前後に知識をまとめます。全国の方に呼びかけます。収録は水道橋の教室です。多くの受講生が前にいます。受講生との「やりとり」もまさに通学と同じ環境です。LEC講師歴28年目でメリハリのあるベテラン山下ならではの講義が多くの受験生に支持されています。受験のツボや試験問題の解き方など合格へのノウハウをしっかりとお話します。

■首都圏での学習

生講義は水道橋クラスとなります。平日と休日、2本実施します。水道橋はJR水道橋徒歩4分。半蔵門線神保町徒歩8分。都営三田線徒歩10分。都心の中心に位置しています。学生街です。面白い街です。

■講義の進め方

最初に当日の講義の概要を話します。次に出題傾向を説明して知識の講義へと進みます。最後にポイント整理を行います。通信の受講生も通学の受験生も必ず「前もって問題演習」を自宅等で行って講義に入りましょう。